様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１４１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１２１１４

研究課題名（和文）新人看護師のリアリティショック軽減に向けたSOCとソーシャルサポート認識への介入

研究課題名（英文）Intervention in SOC and social support awareness to reduce reality shock for Novice nurses

研究代表者
石倉　夏海（Ishikura, Natsumi）

三重大学・医学部附属病院・看護師

研究者番号：７０７７９３７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：因果モデルの検討に時間を要している間に、Covid-19の感染拡大に伴って、新人看護師の置かれている環境に大きな変化があったことが予想されたため、検証できるかどうかの懸念があった。その結果、概念枠組みから再検討が必要となると考えられ、予定していた質問紙調査や因果モデルの検討を実施するに至らなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
Covid-19の感染拡大に伴って、新人看護師の置かれている環境に大きな変化があったことが予想されたため、概念枠組みから、再検討が必要となると考えられ質問紙調査や因果モデルの検討を実施できなかった。

研究成果の概要（英文）：While it took time to study the causal model, it was predicted that there was a big change in the environment where new nurses were placed due to the spread of Covid-19 infection, so whether it can be verified or not. There was concern. As a result, it was thought that a reexamination would be necessary from the conceptual framework, and the planned questionnaire survey and causal model examination could not be carried out.

研究分野：看護教育

キーワード：Sense of Coherence　リアリティショック　ソーシャルサポート　新人看護師

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)研究の学術的背景

新人看護師のリアリティショックは早期離職の重大な要因として注目されている。リアリティショックの定義は「数年間の専門教育と訓練を受け、卒業後の実社会での実践準備ができていたにもかかわらず、実際に職場で仕事をした時に、まだ準備されていないと感じる新卒専門職者の現象や特定のショック反応」とされ（Kramer, 1974/1984)、強いストレスを受けたときの反応である。新人看護師においては3～4年間の専門教育を受け、臨地実習を経験し実社会で働く準備をしてきたにもかかわらず、就職後3ヶ月時に約6割の人がリアリティショックに陥ることが報告されている(水田,2004)。これは、看護学生が実践現場の看護師へと移行していく時期の看護職専門教育の重要な課題である。

先行研究では、リアリティショック尺度得点が高いほど離職願望が高いという報告などリアリティショックと離職に関する様々な研究がなされ(水田,2004;平賀ら,2007)、リアリティショックが新人看護師の早期離職に影響していると考えられている。また、新人看護師の離職に関した研究では、ソーシャルサポートを受けていると認識が低い新人看護師は離職意向が高い(高橋,2012）と報告されており、新人看護師の離職意向を低下させるためには、ソーシャルサポートを認識し活用する力が必要であると考えられる。これらの研究結果より、リアリティショックとソーシャルサポートが関連していることが推測されるが、先行研究では報告されていない。新人看護師のリアリティショックを軽減させるためには、リアリティショックとソーシャルサポートの関係を明らかにすることが重要であると考える。

Sense of Coherence（首尾一貫感覚：以下SOCとする）はAntonovsky(1987/2001)が提唱した概念であり、ストレスに対処する力として注目されている。また、ストレスに対処していく際のソーシャルサポートなどの資源(これを汎抵抗資源GRRsという）は、SOCによって作動すると説明されている(Antonovsky,1987/2001)。新人看護師のストレスや精神健康度に関する研究では、勤務場所への配属1年後に精神健康度が高く保たれていた人は、勤務場所への配属前のSOCが高い人であったこと（米山，2003)、ストレッサーに晒されてもそれを回避する能力が高い新人看護師はSOCが高い人であったこと(山住ら，2011)が報告されている。これらの結果は、新人看護師のSOCの高さがストレス対処に影響していることを示しており、強いストレス反応であるリアリティショックへも影響することが予測される。

SOCは3つの下位概念から構成されており、「把握可能感」はストレッサーの成り行きを予測する力であり、「処理可能感」は何とか処理できるという感覚であり、「有意味感」は解決に向けた努力のしがいを感じる力である。それらの能力が高いほどストレスに対処する力が高いと考えられている。なかでも、「把握可能感」の特徴から、新人看護師のストレスに対して直接効果をもたらすのに必要であると考えられる。さらに、「処理可能感」はGRRsを用いてストレスへ対応する能力であると考えられており、これが高ければソーシャルサポートへの高い認識を介して、リアリティショックを軽減する効果をもたらすのではないかと推測される。

　以上のことから、新人看護師のリアリティショックに対して、SOCがソーシャルサポートを通して影響するのではないかと推測される。そのため、新人看護師のリアリティショックとSOCに関連する要因を洗い出し、リアリティショックに対処するための因果モデルを導き出すことは有用であると考える。新人看護師は就職後3～6ヶ月時にリアリティショックに陥っている者が多く、新人看護師のSOCがソーシャルサポートを認識する力となり、

リアリティショックを軽減するのかを検証する。

図に SOC、ソーシャルサポート、リアリティショックの関連を示すために本研究の概念枠組みを示した。

また、新人看護師の SOC を高めるための介入研究では、離職防止を目的として体験を振り返る内容のグループワークを行い、有用性が示唆されていた(河口ら,2012)が、リアリティショックを軽減することを目的とした報告はなかった。よって、因果モデルを検証した結果をもとに、SOC を向上することでソーシャルサポートを認識できリアリティショックを軽減できるような介入を検討し実施したい。

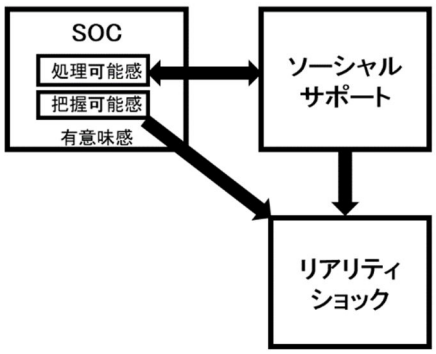

図 新人看護新のSOC、ソーシャルサポート、
リアリティショックの関係性の概念枠組み

(2)研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

平成 29 年度は、前述の概念枠組みをもとに、新人看護師の SOC やソーシャルサポートの認知に影響すると考えられる要因を文献等から洗い出し、SOC がリアリティショックを乗り越える力となることを示す因果モデル案を作成する。

平成 30 年度は、作成した因果モデル案を基にして、就職後 3～6 ヶ月の新人看護師を対象に、因果モデルの検証を行う。その際に、小規模病院の新人看護師ほど離職率が高い傾向にあり、病院の処遇や教育体制などのソーシャルサポートによる影響も報告されている(日本看護協会,2015)ため、規模の異なる様々な病院で働く新人看護師に調査ができるように病院規模別に調査対象を設定する。因果モデルの検証結果を考察し、SOC を高めリアリティショックを軽減するための介入について検討する。

平成 31 年度は、平成 30 年度の調査結果をもとに、SOC を向上させることでソーシャルサポートを認識しリアリティショックを軽減できるような介入を実施する。

③当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点および予想される結果と意義

病院に勤務する新人看護師の SOC、ソーシャルサポート、認知的評価がどのようにリアリティショックに影響しているのかについては明らかになっていない。本研究は、SOC とソーシャルサポートの認識の高さがリアリティショックを軽減させる効果を検証することが特色であると考える。また、この特色を病院の規模別にみることで特徴があるのかを検討する点は独創的な点であると考える。SOC がリアリティショックを乗り越える力となることが実証でき、病院の規模による違いが検討できれば、それぞれに必要な新人看護師の教育内容を導く手がかりとなり、看護教育にとって意味のある示唆となる。

２．研究の目的

本研究の目的は、新人看護師の Sense of Coherence（SOC）とリアリティショックとの関連を検討し、リアリティショックを乗り越える力となる因果モデルを作成し、その有用性を検証することである。

多くの新人看護師は就職後 3～6 ヶ月時にリアリティショックに陥っている。新人看護師の SOC がソーシャルサポートを認識する力となり、リアリティショックを乗り越える力となっているのかを実証する。これにより、新人看護師が SOC を高めることでソーシャルサポートを認識しリアリティショックを軽減できるような介入を検討し実施する。

３．研究の方法

研究目的は、新人看護師の SOC、ソーシャルサポート、リアリティショックについての関係性について検証し、リアリティショックを軽減するための介入について検討することである。

よって、以下の方法で研究を進める。

(1)新人看護師のリアリティショックを軽減するための因果モデル案の作成

(2)新人看護師のリアリティショックに対する SOC、ソーシャルサポートの因果モデルの検証

(3)因果モデルの検証結果を考察し、リアリティショックを軽減するための介入について検討し実施する。

４．研究成果

因果モデルの検討に時間を要している間に、Covid-19 の感染拡大に伴って、新人看護師の置かれている環境に大きな変化があったことが予想されたため、検証できるかどうかの懸念があった。その結果、概念枠組みから再検討が必要となると考えられ、予定していた質問紙調査や因果モデルの検討を実施するに至らなかった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	林　智子 (Hayashi Tomoko) (70324514)	三重大学・医学系研究科・教授 (14101)	
研究分担者	井村　香積 (Imura Kazumi) (00362343)	三重大学・医学系研究科・准教授 (14101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関